



## アスファルト防水高耐久仕様『APEX FRAT仕上げ』

田島ルーフィング株式会社は、1919年創立以来アスファルト防水を中心とした建築防水材料の製造・販売を行っております。

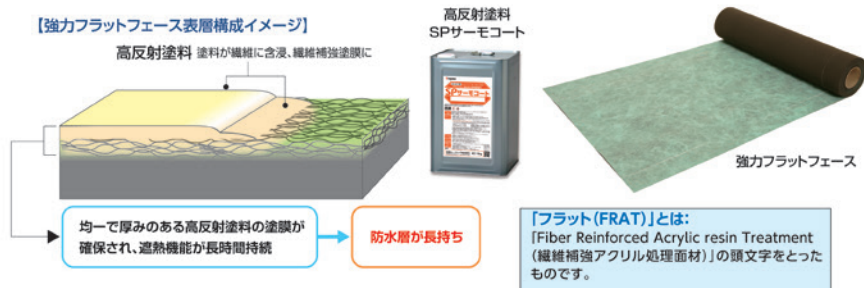
昨今、長寿命化・高耐久・LCCの抑制・LCCO2削減といったニーズが増える中、耐久性の高い防水仕様としてアスファルト防水保護コンクリート仕上げが採用されるケースは少なくありません。しかしコンクリートに不可欠なセメントは製造時の焼成と呼ばれる工程において発生するCO2が非常に多い事が挙げられ、環境対応が建築業界に求められる中、コンクリートの打設量をできる限り減量する事が重要となってきました。

そこで様々な技術を導入し誕生したのがアスファルト防水高耐久仕様『APEX

EX FRAT仕上げ』です。本工法は従来のアスファルト防水保護コンクリート仕上げに匹敵する耐用年数 30 年以上の高耐久露出防水工法で、建築物のLCC O2削減が可能となりました。

本工法の露出用ルーフィングは、従来の砂付ルーフィングとは異なり表層が平滑な特殊面材となっており、ここに高日射反射率塗料を含浸塗布することで、塗膜に面材繊維が絡み合い、強固

な繊維補強被膜層を形成します。これによって、塗膜厚を平均的に確保するとともに、塗料を繊維面材で補強することで、高日射反射機能を長期間保持することが可能になります。保護コンクリートを打設せずに高耐久を実現する防水仕様は、環境対応 (LCCO2) 及びコスト (LCC) の両面から、さらにニーズが高まると考えます。



建築確認検査、住宅性能評価、住宅瑕疵保険、  
構造計算適合性判定、省エネ適合性判定のほか  
インスペクション業務なども行っています。

 一般財団法人 愛知県建築住宅センター



## CONTENTS

地域会だより ..... 1

連載：マクロとミクロの視点から組み立てた  
景観計画群のマネージメントの実践  
—日本建築学会賞受賞業績記 第2回— ..... 2

浅野 聡

支部総会・記念講演会報告 ..... 4

水野 豊秋・澤村 喜久夫・川本 直義

第26回 JIA 東海学生卒業設計コンクール速報 ..... 6

矢田 義典

自作自演 私の仕事 03 ..... 7

支店事務所の長として

瓦田 伸幸

数寄屋の精神

小林 清文

保存情報 第235回

データ発掘：氷室作太夫家住居 ..... 8

野口 和樹

編集後記 ..... 8

宇野 享・川本 直義

「天使の森プロジェクト」/「みんなのトイレ」  
～SDGs から考える～ ..... 9

西村 和哉

## 地域会だより 今後の予定

### ■静岡地域会

- ・ 7/8 静岡地域会役員会の開催 (WEB 同時開催)
- ・ 8/5 静岡地域会役員会の開催 (WEB 同時開催)

### ■愛知地域会

- ・ 7/9 第2回役員会 (WEB 併用)
- ・ 7/16 講演会『電腦設計論壇 #08』(オンライン方式)

### ■岐阜地域会

- ・ 未定

### ■三重地域会

- ・ 未定

## Bulletin Board



### 講演会

#### 電腦設計論壇 #08

杉田 宗氏 講演会



愛知地域会では、コンピューターを用いた設計手法の講演会シリーズ「電腦設計論壇」を企画しています。第8回目は、広島工業大学准教授、建築情報学会常任理事の杉田宗(すぎた・そう)氏をお招きし、『HIROSHIMA DESGN LAB』や『ヒロシマ BIM ゼミ』などの学生・社会人を対象としたコンピューター教育の実践について講演頂きます。

■日 時：7/16 (金) 18:30～20:30

■受講登録ページ：

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_DlxnMzzSl2spKqyxwPflQ](https://zoom.us/webinar/register/WN_DlxnMzzSl2spKqyxwPflQ)  
(QRコードからもアクセスできます)

■参加費：無料

(CPD 単位取得希望者は受講料 1,000 円 / CPD 2 単位：希望される方はリンク先の指示に従って受講料をお振り込みください。)

## 表紙 建築/ランドスケープ/地域計画

1994年の社会人1年目に担当したバラ公園である。計画立案、実施設計、積算までを一貫担当させていただいた。昼夜、T定規と勾配定規、R定規等を用い、製図板にしがみ付きながら図面を描いていた新人の頃は、つい昨日のこのようでもある。

私が建築設計とランドスケープデザイン、そして地域計画を一体的に取り組んでいく動機付けとなった仕事のひとつである。表紙は提案時における手描きの全体計画平面図であるが、概ねこのとおり実現に至っている。

(岐阜県大野町バラ公園)



間瀬 高歩 (JIA愛知)  
地域計画建築研究所

# マクロとミクロの視点から組み立てた 景観計画群のマネージメントの実践

— 日本建築学会賞受賞業績記 第2回 —



## 1. はじめに

前稿では、筆者が三重県域を対象にした景観計画群（日本建築学会賞受賞業績）のマネージメント（調査・策定・運用・普及）を実践するにあたり、第1のコンセプトとして「県土構造から「三重県らしさ」を構築する景観を選定するストーリーをつくる」ことについて言及させて頂いた。本稿では、引き続き、第2以降のコンセプトについて述べてみたい。

## 2. コンセプト2：マクロとミクロの視点から景観まちづくりを組み立てる

コンセプト2は、「マクロとミクロの視点から景観まちづくりを組み立てる」ことであり、これはコンセプト1と関連している。まず「マクロの視点から捉えた景観」とは、同一県域内の市町村境界（行政区画）を越えた広域スケールで存在する歴史的景観、自然景観、眺望景観などのことを指している。そして「ミクロの視点から捉えた景観」とは、市町村自治会などの地域コミュニティ境界をベースに地区スケールで存在する歴史的市街地や集落などのことである。

景観まちづくりの課題の1つとして、景観調査の実施や景観計画の策定には、市町村が個別に取り組むことが殆どであることがあげられる。これは景観法では、景観まちづくりの現場を抱えている市町村が主体となって景観計画を個別に運用する位置づけとなっているからである。もちろん景観法に限ったことではなく、市町村が担う地方行政の多くの分野は、市

町村単位で個別に運用することが基本である。一部事務組合などを設けて特定分野（消防・清掃・火葬場・上下水道・教育など）に限定して広域行政に協力して取り組むこともあるが、これらは生活基盤を維持する上で必要となる基礎的な分野であり、経済発展などを伴う自治体間競争を生む分野ではない。一方、景観まちづくりは都市再生の重要な施策の1つであり、固有の景観資源を活用した観光施策の推進、定住人口確保のための居住地の魅力づくりなどと関連する。海外でも歴史や自然が大切にされ景観的に魅力のある地域は、生活都市あるいは観光都市として人気があるのと同様である。このような理由もあり、隣接する市町村同士でも本格的に景観まちづくりに協力して取り組むことは稀である。首長によって都市再生に対する考え方が異なり、ライバル同士になることもあるからである。

都道府県は広域行政（市町村の調整役を含む）を担う位置づけであり、景観法では都道府県も景観計画の策定は可能であるが、前述の通り、現場を抱えている市町村が主体的に取り組む位置づけとなっていることから、やはり市町村の取り組みは重要である。

しかしながら、市町村主体の取り組みだけでは、マクロの視点から捉えた景観は欠落しがちとなり、ミクロの視点に偏ったものとなることは必至である。これでは、広域スケールで形成された歴史的景観や自然景観から成る「三重県らしさ」が計画に反映されないことが危惧される。

そこで、コンセプト1で選定した3つの圏域（①歴史街道文化圏域、②伊勢志摩国立公園圏域、③世界遺産圏域）を対象にして、マクロとミクロの両者の視点から組み立てた景観の地域特性（三重県らしさ）を県域全体で反映していくために、市町村単独の取り組みで完結しないように多くの関係者に働きかけ、圏域ごとに複数の市町村において景観形成が実現するように尽力することとした。

## 3. コンセプト3：全県域をカバーする

コンセプト3は、全県域をカバーすることである。コンセプト1、2と関連するが、県土構造から「三重県らしさ」を構築する景観まちづくりを実現するためには、限定された一部の地域のみに関わるのではなく全県域をカバーすることが原則となる。しかしながら、この道のりは容易ではない。1つの市町村の景観計画をマネージメントするだけでも、調査から始まり計画を策定して運用開始にたどりつくまでに、順調にいても3年間程度はかかるからである。まず市町村が正式な政策として景観まちづくりに取り組み、景観行政団体

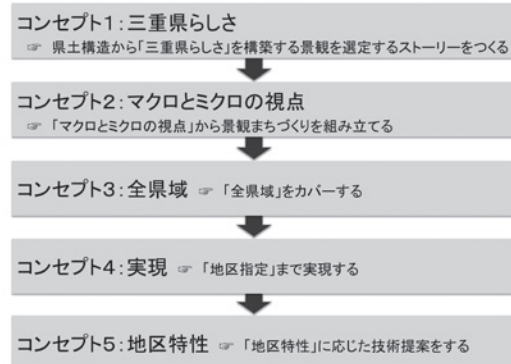


図1 5つのコンセプト

になることを決定してもらう必要がある。そして計画案の策定後は、住民説明会やパブリックコメントの実施、市町村議会における審議と景観条例の制定、景観審議会の設置と審議、景観計画の周知といった数多くのプロセスを経ることが求められる。この一連の長いプロセスを数多くの市町村を舞台にして上手に進められるかどうか。私からの働きかけを受け入れてもらうことができるかどうか。

実現できるかどうかはチャレンジしてみないとわからないが、これまでも様々な都市計画事業やまちづくりプロジェクト群を全県域に渡って引き受けてきた経験があり、行政との間に一定の信頼関係が構築されていたことから、(短期的には無理でも)中長期的な視点を持って継続的に働きかけていけば達成できるのではないかという見通しをたてて取り組むこととした。

#### 4. コンセプト4：地区指定まで実現する

コンセプト4は、決して調査で終わらせることなく地区指定まで実現することである。各地で景観調査が行われているが、例えば大学の研究室による調査は、卒論や修論などの研究活動の一貫として位置

づけられることも多く、学会などで研究成果が発表されることはあっても実現には至らない。

実現を目指して行政が予算化して景観調査を実施する場合もある。この場合は、専門家が参加して丁寧な調査が実施されるが、調査が上手くいっても次のプロセスで壁にぶつかることとなる。例えば歴史的市街地において景観調査をした結果、町並み保全の価値があると判断されても、一般的にまちづくりは「総論賛成、各論反対」であることから、地元説明会の場でその重要性は理解されても、規制などを伴う重点地区の指定には地元同意が得られないケースが多いためである。

景観まちづくりは、景観形成のための地区指定をすることが不可欠であり、これが実現できないと前に進まない。この壁を乗り越えるためには、スタート時から地元の理解を十分に得るとともに、景観まちづくりに取り組む意義や期待される効果、景観計画の仕組みなどについて、時間をかけて協議し、関係者間で合意形成の場を設けていくことが欠かせない。JIAの会員の皆様も、施主とコミュニケーションし、理解と同意を得て質の高い建

築物にするための設計監理に取り組まれていると思われるが、まちづくりも同様である。決して夢物語とならないように、調査だけで終了せずに重点地区として指定できるまで責任を持って関与するために、途中であきらめて放棄しないように努めることとした。

#### 5. コンセプト5：地区特性に応じた技術提案をする

コンセプト5は、地区特性に応じた技術提案をすることである。景観法の施行を受けて景観行政に初めて取り組む市町村や都道府県も多く、担当者が基本的な計画技術を持っていない場合がある。地域ごとに歴史的景観や自然景観の違いもあるために、景観調査のフレーム、重点地区の景観形成基準、眺望景観(自然景観)保全地区の視点場・視対象・範囲の設定基準などの技術基準を地区特性に応じて提案し、景観計画に反映できるように支援することも重要である。景観行政に関わる担当者の計画技術の向上にも寄与するように努めることとした。

#### 6. おわりに

本稿では、筆者が三重県域を対象にした景観計画群のマネジメントを実践するにあたり、自ら設定した主要なコンセプトについて説明をさせて頂いた。建築設計とまちづくりは共通する点も多く、JIAの会員の皆様が取り組んでいる建築設計に何かしらの参考になれば幸いである。次号以降は、3つの圏域の中で実践した取り組みについて、直面した課題や課題解決のための工夫や苦勞などを含めて事例紹介してみたい。



浅野 聡  
三重大学教授

### 景観計画にもとづく重点地区の指定

-三重県らしさを構築する歴史都市群、国立公園、世界遺産を対象にして-



図2 景観計画にもとづく重点地区の指定

「業績の特徴」

- ①同一県内において「多数の重点地区」の指定の実現  
(歴史的景観と自然景観の保全・形成を目的に18地区を指定)
- ②歴史都市群を対象に「多様な種類の町並み」を指定  
(城下町(武家地・町人地・寺社地・門前町・寺内町・宿場町・農村集落)
- ③「国立公園」及び「世界遺産」も対象にして指定  
(伊勢志摩国立公園(紀伊山地の霊場と参詣道))

# 支部総会・記念講演会報告

2021年度のJIA東海支部総会・総会記念講演会は、5月14日(金)にオンライン方式で開催されました。一部のスタッフのみJIA東海支部事務局にて集合しました。事務局で参加したのは10名で、リモート参加は、総会は47名、講演会は53名でした。

講演会は、16時から17時30分までの開催で、「美しい国土づくりと地方創生」と題し、講師は金野幸雄氏(国土計画家・コンセプター)でした。



JIA東海支部総会の様子



記念講演会の様子(JIA東海事務局)



金野幸雄氏

## 東海支部 2021 年度通常総会

2021年度通常総会は今年度も集合形式で開催することができず、書面評決の上での、オンラインの開催(ZOOM)となり、第1号議案 事業報告・第2号議案 収支決算(監査報告)の承認、そして事業計画・予算の報告をさせて頂きました。スムーズな進行で、オンラインの良さを再認識することとなりました。また会員の皆様には支部長になって初めてご挨拶ができました。しかしながら総会を始めとする

イベントがリアル開催できることを切に願うばかりです。

その後開かれたオンライン講演会の講師「金野幸雄」さんは、本部理事会前勉強会での講演をお聞きして、深く感銘を受け、是非支部の皆様にもとの思いから企画させていただきました。丹波篠山の取り組みを拝聴し、その手法(限界集落の再生)が、苦労を重ね、問題を解決させながらたどり着いたそのプロセスを、

もっと知りたいと思いました。実は自分の生まれ育った実家が限界集落であり、石場建ての茅葺の民家であるが故に興味をそそられたこともありました。これからも金野さんの、美しい日本の風景を残し活かす取り組みを注視し、参考にさせて頂きたいと深く思います。

水野 豊秋 (JIA 愛知)  
JIA東海支部長



## JIA 東海支部総会記念講演会

2021年度東海支部通常総会に続き、『美しい国土づくりと地方創生』と題して、国土計画家・コンセプターの金野幸雄氏によるオンライン講演会が開催されました。

左手に「良き規制」を構えて、右手で「良き開発」を実行していく、その二本立てが美しいまちを創るために必要であるが、日本ではほとんど実践されていない、という切り口で始まりました。丹波篠山、竹田城下町での古民家や空き家を活用したまちづくりを進める中で、関係法令の改正に関わり、規制緩和に繋がった事例などが紹介されました。私もこれまでに歴史的建造物の保存事業に携わる機会があり、特に歴史的資源の活用における建築基準法や文化財保護法の改正内容には興味を持ちました。

1950年に制定された建築基準法は、伝統構法による古民家について構造設備基準を持ち合せていません。そこで原形を残すため石場建ての基準制定、階段勾配の基準緩和などを実現させたとのこと。さらに指定文化財も含めた文化財の活用が進むことに繋がっていきます。古民家などの改修においては、その価値を大切に、活用のために最小限の改変を加え、未指定文化財であっても、ハウスインハウスの手法を取り入れるなど、文化財保存活用の技法を採用していることに共感しました。

講演の最後は、地方創生の理論的枠組みとして、東京一極集中から多角連携が論じられてきましたが、東京のミニチュアをつくるのではなく、都市的な思考である「グローバルな地平」という豊かさに、

「ローカルでクリエイティブなエリア」という豊かさを乗せる二層構造で国土を捉えるべきだと結ばれました。

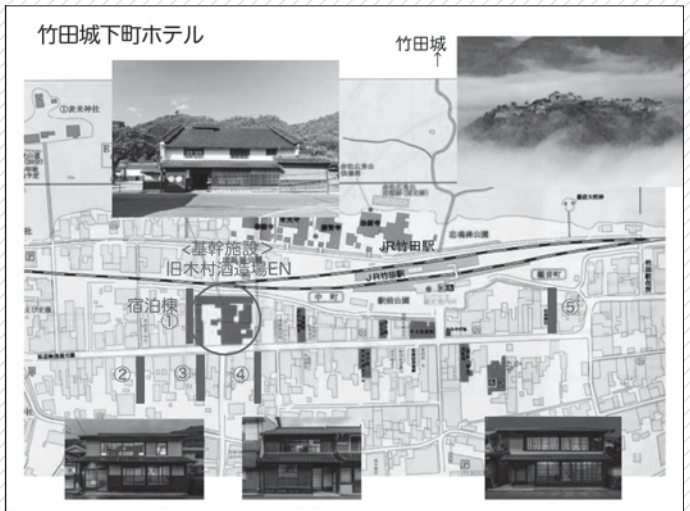
金野氏は篠山市副市長時代(2007～2011年)から地方創生に積極的に取り組んでこられ、地方創生の先導的な成果をあげられてきました。今後、各分野において自然回帰が加速するといわれる中、地方がそれぞれの地域に根付いた歴史や文化をもとに自立、分散し、それらの地方が連携・協力することでさらに多種多様な地方創生が活発化することに期待を膨らませました。

澤村 喜久夫 (JIA 愛知)  
(株)伊藤建築設計事務所





篠山城下町ホテルNIPPONIA (金野氏講演スライドより)



竹田城下町ホテル (金野氏スライドより)

## JIA 東海支部総会記念講演会にオンライン参加して

5月14日、JIA 東海支部総会記念講演会にオンラインで参加しました。講師の金野幸雄氏も総会会場ではなく、オンラインで遠隔地からの講演でした。このように、新型コロナウイルス感染症が流行してから、オンラインの講演会が増え、かえって様々なものに参加する機会に恵まれるようになったと感じます。そして、講演会場での参加の場合、スライドの文字が小さくて読めないし、音声も聞こえにくいこともありますが、オンラインの場合は、自分のPCの環境でカバーできるので快適です。

さて、今回講演をしていただいた金野幸雄氏とは、過去にお会いしてお話を伺ったこともあり、理解を深めるためにも今回の講演を大変楽しみにしていました。本稿は総会記念講演会の報告ではありませんが、私は講演の中で事例として紹介された施設に見学に行った経験があることから、その時の様子などを交えて報告します。

金野氏が一般社団法人ノオトの代表理事をされていた2016年の文化経済学会〈日本〉研究大会で、「文化資源を活用した都市・地域再生：アウトカム・インパクトを検証する」というテーマのシンポジウムのパネリストとして、「一般社団法人ノオトの歴史的建築物の活用」をご報告されました。私はその時、丹波篠山におけるホテルの仕組みに衝撃を受けました。

宿泊室が街中にちらばっていて、フロントは一か所だという。それで宿泊者の管理ができるのだろうかという疑問を抱きました。今回の講演でも、篠山城下町ホテルNIPPONIAについてスライドを見せられて説明があり、改めて町全体がホテルになっていることがよくわかりました。

私は2018年3月にホテルNIPPONIAの運営事業者のバリューマネジメント(株)の案内で兵庫県内の文化財となっている古民家等を活用したホテルを見学する機会があり、篠山城下町ホテルNIPPONIAにて金野氏にも直接お会いすることができました。その時の感想ですが、古民家の活用の仕方は、単に外観を残し内部を近代的に大改修しているかというのではなく、以前そこで生活していた痕跡をできるだけ残しながら、快適な空間を実現させていました。蔵なども立体的に活用して宿泊室をつくるなど工夫がされており、文化財の価値を残しながらの活用を見事に成し遂げていて大変参考になりました。

また、今回の講演会の中で、歴史的建築物活用PPP(官民連携手法)の活用提案型指定管理の事例として紹介されていた朝来市の旧木村酒造場(竹田城下町ホテル)も見学させていただきました。ここは、施設自体が、竹田のまちづくりの拠点となっており、観光案内所を備えた情報館も整備され、地域の魅力創出の場を目指

していました。宿泊施設もありますが、公開ゾーンとプライベートゾーンが明確になっており、一般の人の施設への入口と、宿泊客の入口は全く別の場所にあり、同じ建物内でも動線が交わらなくなっていました。この施設は市の施設であり、指定管理のホテルですが、運営事業者は、地域の民間施設にも宿泊室を展開し同時に管理運営することで管理運営コストを抑え、地域活性化にも貢献していました。ホテルの方に聞くと、宿泊室にはテレビ、時計は設置していないとのことでした。時間の流れをゆったりと感じながら過ごすことに意味があるのだと思います。忙しく動き回るためのビジネスホテルとは全く違うものです。

本講演で、金野氏は単体の古民家を活用したホテル事業ではなく、面的な開発を提案し、クリエイティブな人材の地方移住などにより、様々な産業を興し地方都市を活性化させるなど、まちづくりの開発を進めていこうという取り組みをされているのだと改めてわかりました。最近では、テレワークなどで、地方でも仕事ができることが認識されるようになってきましたが、私たち建築家の仕事の仕方も今後大きく変わっていくような予感がしています。

川本 直義 (JIA 愛知)  
 (株)伊藤建築設計事務所



# 第 26 回 JIA 東海学生卒業設計コンクール速報

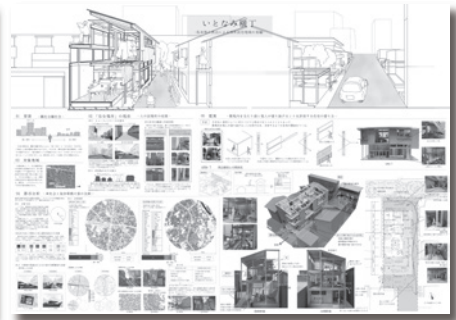
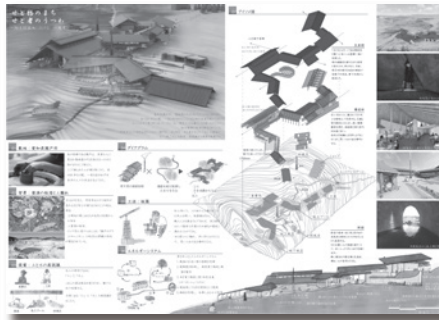
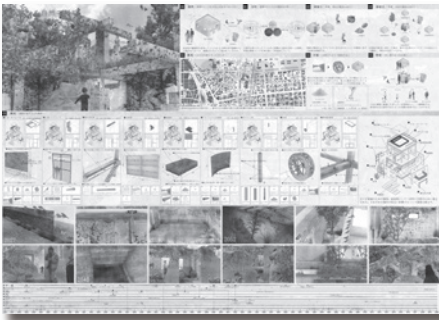
5月29日(土)に3年ぶりとなる「第26回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 2021」がオンライン形式で初めて開催され、受賞作品が決定致しました。上位三作品が6月19日の全国卒業設計コンクールに進出しています。



審査の様様



審査員と応募者による記念撮影



## ⇨ 金賞 ⇨

### 「静かなる自然の侵略」

坂口 雄亮 (名城大学)

## ⇨ 銀賞 ⇨

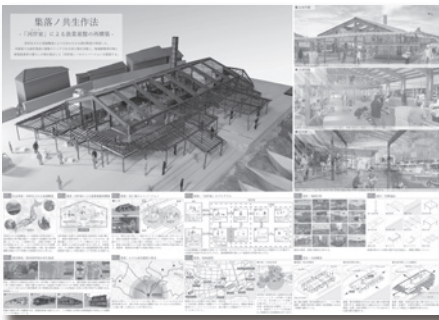
### 「せと物のまち せと者のうつわ」

—陶土採掘場における土の再考—  
長谷 真彩 (名古屋工業大学)

## ⇨ 銅賞 ⇨

### 「いとなみ横丁」

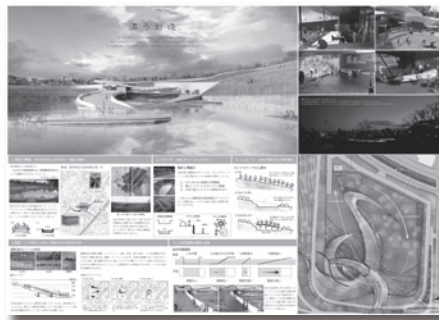
—私有地の供出による郊外居住地域の再編—  
山田 明日香 (名城大学)



## ⇨ 佳作 ⇨

### 「集落ノ共生作法」

—「河岸家」による漁業基盤の再構築—  
林 佑樹 (愛知工業大学)



## ⇨ 佳作 ⇨

### 「漂う創造」

谷 俊栄 (名古屋工業大学)

## ⇨ 入選 ⇨

### 「xxx-ing Mallization」

上野 拓人 (大同大学)

### 「多重奏の作法」

—インテリアの空間構成要素と行為の関係性—  
田中 聖竜 (大同大学)

### 「都市水景再生」

沢田 雄基 (名古屋工業大学)

### 「つながりと緑の庁舎」

奥山 堅太 (愛知工業大学)

### 「住みツグ」

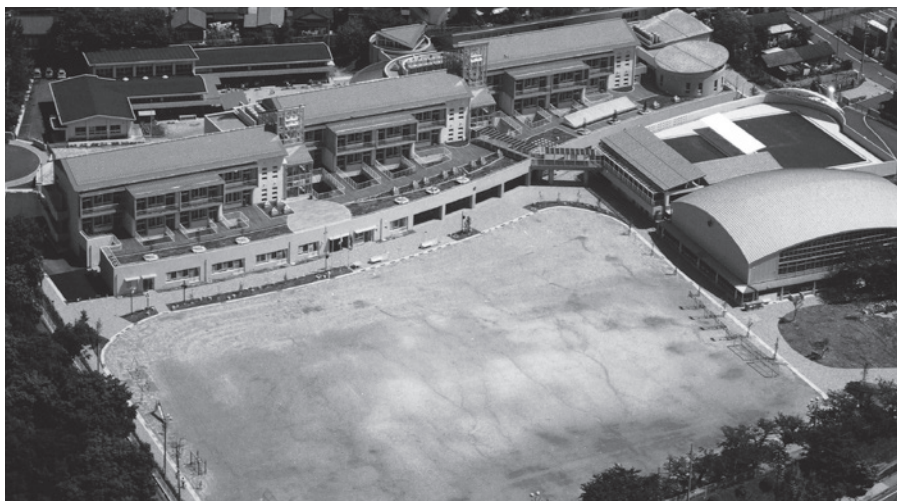
井上 玉貴 (愛知工業大学)

## 支店事務所の長として

この5月で、諸事情から東畑建築事務所名古屋オフィスの代表を退くことになった。会社に入り、40年超の歳月が流れた。私自身は大阪の出身で、名古屋へ赴任したのは30歳になるときであった。当初は2年の約束で転職したのだが、ミイラ取りがミイラになるが如く定年を超え今に至っている。

白い街と言われ、東京と大阪に挟まれた名古屋でもがきながらも、全国組織の事務所のおかげで中部圏のみならず東京、兵庫、北陸、福岡、愛媛等、地方の仕事にも携わることができた。

代表職について丸6年が経過、一応黒字を継続できた。支店の長は組織において中間管理職のようなもので、そ



の成果に責任がある。全うするためには、所員のモチベーションを高め、沢山の良い仕事をして貰わなければならない。

組織設計事務所の価値とは何なのか、仕事を発注してもらうには何が必要なのか、創始者である東畑謙三は自らを構成技師と呼び技術者として生きてきた。私たち組織事務所は技術者集団ではあるが学生時代、建築を学び入社してきた人達は組織としての建築家を目指したいのが望みではないだろうか。

代表というポジションに胡坐をかくのではなく、所員と共に悩み、皆が気分よく仕事に取り組める環境を作っていくことが代表の仕事だと感じている。代表職は辞するが、今暫くは新しい代表を補佐し、事務所に貢献していくつもりである。



瓦田 伸幸 (JIA 愛知)  
東畑建築事務所

## 数寄屋の精神



「数寄屋」この言葉からは料亭・茶室等、高級な素材でつくられた建築を思い浮かべる人がほとんどでしょう。しかし本来、数寄屋建築は身の回りにある簡単に手に入るもので作られていて、決して高級な素材にこだわったものではなかったはず。簡素な材料に加え、そこに必要なものは時代性と「あ

りふれた素材を美しく構成させてみせる」作家としての「知的操作」であると思います。

2014年、岡崎で最も伝統のある老舗日本料理店「魚きよ」さんの建て替えに携わりました。主な建築素材は外部、磁器質タイル・ジョリパット・日本瓦・リン酸処理鋼板。内部、フロー

リング・畳・クロス・化粧合板・・・といったところです。

「数寄屋の精神」に則り設計しました。



小林 清文 (JIA 愛知)  
株式会社小林清文建築設計室

津島市は毎年7月に巻藁船を天王川に浮かべる幻想的な尾張津島天王祭(注1)が有名で、その中心部にはこの祭りにゆかりの日本全国に約3,000社余りある牛頭天王(注2)社の総本社としての津島神社(注3)がある。「お伊勢参らば津島へ参れ、津島参らば片参り」と歌われている様に伊勢神宮参詣と並び、津島神社には古くから疫病治癒や厄難除けの御利益を求めて大勢の参詣者が訪れている。

この津島信仰は室町時代以降に活躍した津島神社社家である津島御師(注4)の活躍により、日本各地に広まったとされている。

その御師の1家である氷室作太夫家(注5)の住居は天王川公園の池より東の南北に通じる通りの東側に位置し、道路に面して門と塀、更に北側に接する形で長屋が建つ。更に門から中庭をはさんだ奥に大きなボリュームの二階建の主屋がひっそりと佇んでいる。



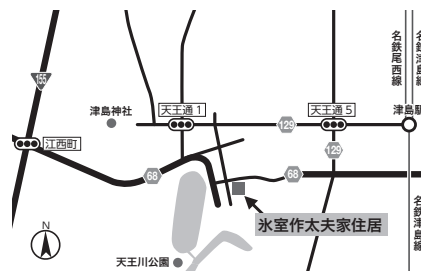
左:長屋 正面:門



主屋正面外観(再生イメージ) イラストレーター:クレメンス・メッツラー(Clemens Metzler)作画

1階下屋庇の付く正面には右側より鳥居形の飾板で装飾された巾広引戸の大戸口の玄関、中央部には広巾2間に及び賓客用の式台付の来客玄関、左側には来客向けに神楽なども催せる客室大座敷と続き、その奥にはサービス用途としての土間の台所、当主家族の部屋・納戸などが続く。2階には2間巾の祭壇をもつ祭祀室や客室等々が有る。これらは宿場町の宿屋とも大きく異なる特徴があり、参詣者に対して宿を提供しながら、神楽や祈祷などを行い最大限の饗応を尽くすことが目的の住居である。

建物は年々劣化を重ね現在は非公開となつてはいるが、氷室作太夫家住居の保存活用を進める会(注6)の努力も相まって、2021年度から現況を把握するための調査を津島市が実施する。長いスパンになるかとは思いますが保存活用が上手く実ることを期待したい。



**【概要】**  
**所有者:** 津島市(市指定有形文化財建造物)  
**所在地:** 愛知県津島市片町2丁目7番地、8番地  
**建物概要:** 木造2階建、屋根入母屋造いぶし棧瓦葺(下屋庇共)、外壁土塗壁仕上/別棟等  
**長屋:** 木造平屋建、門:薬医門  
**建築年代:** 主屋 江戸末期 嘉永2年(1849)、  
 長屋:安政5年(1858)頃、  
 薬医門:江戸末期頃

- (注1): 2021年の巻藁船に関する天王祭行事は早々に中止決定。津島神社社事のみを関係者のみで実施予定。(同年4月29日決定公開記事より)
- (注2): 元来はインド祇園精舎の守護神、薬師如来の化身とも云われるが故に難病治癒の祈願所として全国に有名となる。
- (注3): 欽明天皇元年(540)創建、主祭神:建速須佐之男命、神宮寺として4寺院中の神社の北、牛頭山宝寿院に厄除け薬師如来が安置。
- (注4): 伊勢神宮の場合は御師(おんし)、それ以外は御師(おし)と云う。津島神社の場合も社家の一族の者が神主の許可の元で主に東国をはじめ各地を巡回して、津島信仰の拡大に務める傍ら、自身の住居を参詣者への宿舎として提供、旅費などの貸付けも行う等、現代で云うツアーコンダクターとして活躍。
- (注5): 神職である社家の内では格付けがかなり低く、全41社家中31番目の庶子禰宜の家ながら、現在御師が住んでいた住宅としては此処のみが現存しているだけに、大変貴重な御師の歴史文化遺産と云える。
- (注6): 詳細はHPURL <http://himuro-sakudayuu.com> による。

野口 和樹 (JIA 愛知)  
 (有)野口良一設計事務所



# 編集後記

●今月の様々な報告を拝読し、改めて地方の発信力が強まっていると感じた。三重県のマクロとミクロの景観計画、講演会へのオンライン参加で紹介されたNIPPONIA、卒業設計のテーマ設定、数寄屋の精神や、津島の氷室作太夫家の保存情報など、いずれも地域の歴史、文化に根付いた物語を背景に、短期間では成しえない成果の報告がされている。特に、三重大学教授浅野聡氏の報告にある自治体を越えた景観計画への取り組みは、建築の設計者に貴重な提言をされており、設計作法の重要性を再認識させられるものであった。限られた紙面ながら、膨大かつ長期的な戦いの跡が伝わってくる。自戒の念も込めて、うわべだけ取り繕った景観への取り組みか

ら建築は脱却し、このような本格的な景観計画とスクラムを組んだ設計が本当に必要な時代になっていると痛感した。(宇野 享)

●早いもので、私が『ARCHITECT』の編集責任者となって1年が経った。編集会議は、毎月開催しているが、コロナ禍でずっとオンライン会議である。以前は、会議の前後の雑談などで情報交換ができたが、今はそれがしにくく、どうしても役員会等の公式な情報をもとに掲載記事を考えることになってしまう。コロナ禍のため事業も減っていることから、題材も乏しい状態が続く、特集の企画もなかなかできていない。そんな中で明るい話題としては、卒業設計コンクールが再開されたことだ。今月は速報を掲載したが、9月号ではより詳しい記事の特集を企画しているので期待してほしい。さて、会報委員会では、会員からの投稿を常に受け付けている。委員会で募集するテーマ

にこだわらず、意見、主張、記事の感想など、ぜひ会報委員会に寄せてほしい。

(川本 直義)

## ARCHITECT

第 394 号

発行日 2021.7.1 (毎月1回発行)

定 価 380 円 (税込み)

発行責任者 水野豊秋

編集責任者 川本直義

編 集 東海支部会報委員会  
 愛知地域会報委員会  
 株式会社イヅミ内  
 ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564) 21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部  
 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail: shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/

# 「天使の森プロジェクト」/「みんなのトイレ」～SDGs から考える～



第1回目現地製作会



第2回目現地製作会にて壁丸太組工事



4月24日完成

NPO 法人アースワーカーエナジーが実行する「天使の森 100年プロジェクト」は、生態系の中の一部である人と自然の在り方という原点から、森林の再生・里山の暮らし・地域循環型産業を考え、実現に貢献していくことを目的とし、また未来につながる子ども達に自然と人のあるべき関係を知るきっかけとなるよう、2010年より活動しています。主に小学生に広葉樹の苗木を育ててもらい、生活の中で使用する水の川上の環境を変えることの大切さを学びます。毎年11月には、山を区分けし段階的に育った苗木を植樹しています。(令和2年に6回目)水源地と海の関係性を意識しながら、現在の環境問題の重要性を学び、体感します。将来現地は「環境学習公園」として展開の構想もあります。

2015年10月にJIAとして初めて「天使の森」を訪れ、以降植樹作業や下準備に参加させていただいたなかで、JIAにお声掛けいただき、学生(NAF: NAGOYA Archi Fes)と共にトイレ製作が始まりました。

JIAが「SDGs 建築ガイド日本版」を刊行した頃、2019年9月のJIA 東海支部「けんちくかフェス」にて六鹿正治会長と小原淳氏(NPO 法人アースワーカーエナジー理事長)を迎え、「天使の森」と「SDGs」について講演会を開催しました。この機会はトイレ製作にあたるキックオフとなり、12月末に学生を中心に現地を調査し、自然を学び設置位置を検討しました。2020年2月には第1回目の学習会として「持ち込まない、持ち出さない」(現地資材の活用と廃棄物の現地処理)を元に、現地の自然(植物、土、石)を利用した資材選択と活用方法及び構築について、更にはトイレの仕組み、便器自体について話し合いました。計画地は山頂に位置し、遠くには三河湾が望め、光、風、緑等の自然を感じる開放的な空間と傾斜地を利用した計画とな

りました。4月末の完成を目指していた矢先に、コロナ禍の影響で一旦計画を中断しましたが収束の見通しが立たない中、11月にリモートにより第2回目の学習会を再開しました。今回のプロジェクトでは、JIAが取り組むSDGsを理解し、現地体験→学習会(設計)→製作実践(施工)→完成後の学習会(まとめと展望)+総括セミナーと一通の教育実践プログラムとしました。2021年2月末までに全5回の学習会を開催しました。

学生からの提案を基に、現地の資材から建築の大きさや技術、耐久性、作業効率を考慮し、またワークショップを想定して、基礎はなく、先行して各コーナーに3本柱を立てその間に壁丸太を落とし込む工法としました。建築の足元は土留め、目隠しとして現地の石を積みます。使用時に安心できるクランクした動線、壁の高さ(設計時1.8M製作時2.2M)や、外部に人がいる場合に安心して使用できる距離(3M)を検討しました。丸太は壁として積木する際に節や太さにより隙間が生じてしまうため末口に合わせて上下をスライス加工しました。便器は使わず石積みにて溝を作り、床面はダニ予防のため敷石とし、屋根はなく、雨が床と溝周りを自然に洗い流します。使用者はまずヒノキの葉を溝に敷き、排泄物の上に再びヒノキの葉を被せます。そして貯水槽の雨水を自ら流します。紙は植物利用も考えています。

いよいよ2月28日学生と現地にて方向の確認、建物位置決め、丁張りを行いました。山頂の広場から離れ、傾斜地に西日が当たる位置としました。3月に入り掘削に取り掛かります。笹の根はしぶとく、石が掘り出され、資材運搬では山頂は遠く、結局重機頼みとなり人力の無力さを痛感することとなりましたが、柱の建方は人力で行いました。

現地製作会では、山道を歩きながら「天使

の森」の活動を学びます。製作前に活動取組みと今までのプロセスを理解し製作に入ります。「みんなで考え、みんなでつくる。」を基に2回に渡り開催しました。3月27日の第1回目では建築足元であるアプローチを製作する、現地の「石をさわる。並べてみる。ワークショップ」を行いました。土を掘り、石を組み合わせ、石を割り、参加者は広がって試行錯誤、相談、協力して石を並べていき、それぞれの敷石が繋がっていき、同時に自然と人と人の距離感も近づいて繋がっていくのが微笑ましかったです。4月3日の第2回目では壁丸太に各自「天使の森に対する願い」を書込み、記念撮影をして、現地で自ら組んでいきました。参加者の記憶に残り、将来も続けてこの企画の重要性とSDGsを考える場となることを願いました。当日は天候気温にも恵まれて、また参加者の皆様のヤル気にも助けられて、無事目標達成することができました。

後日、壁丸太下石積み、内部床の敷石、庭の縁石造りを終えました。

細かな工事と植栽、オガクズや土との攪拌による分解等詳細については、今後詰めていきます。

自然と対峙し、ひとつの目標に向かって協力し合い、人との繋がりが広がったこのプロジェクト全体がSDGsだと解釈しております。コロナが収束の際には完成後の総括セミナーの開催を予定しており、この「みんなのトイレ」プロジェクトは完了しますが、引き続き「天使の森」の活動に携わっていくことで「持続可能」な活動に繋がればと思います。

※「天使の森」NPO法人アースワーカーエナジーの環境保全・河川流域産業の活性化プロジェクトの活動の場である山林

西村 和哉 (JIA 愛知)  
h + de-sign / architect

